

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：25302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K03163

研究課題名(和文)人間関係力を育む保育者養成教育のあり方に関する実践的研究

研究課題名(英文)Childcare Worker Training to Foster Capacity for Interpersonal Relationships

研究代表者

加藤 由美 (KATO, Yumi)

新見公立大学・健康科学部・准教授

研究者番号：70509629

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：保育者養成大学の学生が保育現場の実情を知り、職務上の人間関係のあり方について実践的に学ぶことができるようにするため、心理教育プログラム“サクセスフル・セルフ”保育者養成版を作成後、四年生の保育者養成課程学生を対象としてレッスンを実施し、その内容や実施方法、効果について検討した。学生の記述内容から、本プログラムは分かりやすく役立つ内容になっていることが示唆され、学生の自己・他者理解に繋がり、人との関わり方について考える機会となったことが窺えた。プログラム実施前後の質問紙調査の結果、プログラムの効果については、今後さらに詳細な検討が必要だと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保育者養成教育において、保育現場に適応できる人間関係力を育むための心理教育プログラムを作成、実施、評価することは、メンタルヘルス対策として、若年層に増えている早期離職やうつ病等による休職といった深刻な社会問題の予防につながり、結果として若手保育者の採用や教育に係るコストの埋没を防ぐことが可能となる。保育者としての人間関係力を高めることは、職員間の連携が不可欠な保育の場において、保育の質を担保することとなる。また、従来の保育者養成課程のカリキュラムには取り上げられていなかった人間関係力を育成するためのプログラムは、就職後の保育現場への適応や定着を図るために有効な独自の取り組みであると考えられる。

研究成果の概要(英文)： To help students at universities training to be childcare workers understand the ground realities of early childhood education and learn practically about the state of interpersonal relationships in the field, a “Successful Self” Childcare Worker Version was developed as a program in psychoeducation. Then, lessons were conducted with students in a four-year program in early childhood education, and the content, implementation method, and effects of the program were examined. Student responses to the program indicated that the content was intelligible and useful, suggesting that the program fostered understanding of the self and others and functioned as an opportunity for students to consider their way of interacting with others. Although the results of questionnaire surveys, the effects of the program remain unclear and must be examined in future research.

研究分野：臨床心理学

キーワード：保育者養成 人間関係力 心理教育 実践研究

### 1. 研究開始当初の背景

子どもの健全な成長のために、保育者のメンタルヘルスは重要である。しかし、保育者の勤務環境は年々厳しくなっており、保育者の離職率の高さや保育人材の不足の深刻化などが指摘されている。保育職の離職理由の特徴として、「職場の人間関係」「心身の不調」等が挙げられている（社団法人全国保育士養成協議会，2010）。海外においても、職員とのコミュニケーション、ソーシャルサポートの低さや欠如がバーンアウトにつながる要因となっており（Michal, Mor, Jan, & Amy, 2001; Goelman, & Guo, 1998）、職員との人間関係が保育者のストレス源との報告がある（Alison, & Donna, 1995）。国内では、保育者のストレスに関して既に多数の調査が実施され、その困難な実態が指摘されている（安達，2001 他）。職場の人間関係の問題は、保育者の代表的なストレスの原因であり、離職につながりやすい要因であるとされている（吉田・渡辺，2011・2012；石川・井上，2010）。特に、若手保育者は多くの困難を抱え易いため、他の年代の保育者よりも心の疲労度が高く（上村，2012）、バーンアウトに陥る危険性が高い（齋藤・田中・村松・橘・宮岡，2009）。そして、職場の人間関係に困難感を抱きやすく（足立・柴崎，2009）、それを理由に退職を考える場合もある（全国保育士養成協議会，2009）ことが指摘されている。

保育現場では、クラス担任が複数担任制をとることや、新卒者とベテラン保育者が一緒に仕事をすることが多く（小原・鈴木，2013）、同僚間での連携が重要となるが、保育者一人ひとりの保育に対する考え方や保育の方法は異なるため、保育者間でのくい違いが起こり易く、互いに共通理解を図ることは容易ではない。そのような状況において、特に若手保育者は職場の人間関係に困難感を抱え易いと考えられる。

しかし、保育者を養成する大学においては、そのような保育者として求められる人間関係力を育むことを目的とした教育実践はほとんど行われていないのが現状である。学生の中には、他人との最初の関係作りや能動的に働きかけることについて、困難や躊躇を感じる者が多いとの報告もある（真下・張・中村，2010）。そのため、保育職につく前段階の大学生を対象とした保育者養成教育において、人間関係力を育成することにより、就職後の職場適応における困難感が軽減されるのではないかと期待できる。

### 2. 研究の目的

保育者養成大学において、保育現場に適応できる人間関係力を育むための心理教育プログラムを作成、実施、評価することを研究の目的とする。

### 3. 研究の方法

“サクセスフル・セルフ”（安藤，2011）の実践を基盤とし、保育者養成に特化した人間関係力育成プログラム（心理教育プログラム“サクセスフル・セルフ”保育者養成版）を作成する。その際、先行研究を概観するとともに、大学生や若手保育者を対象としたプログラム内容を参考としながら、保育現場での人間関係力育成に効果的なプログラム内容および評価指標（質問紙調査の項目）について検討を行う。

次に、作成したプログラムを実施する。レッスンにおいては、保育現場での困難事例を取り上げたワークシートを使用し、個別活動、グループ活動、ロールプレイ等を適宜実施する。各レッスンの終了時に、学生がレッスン内容への理解や感想等について記述する振り返りシートを使用する。プログラムの実施前後に質問紙調査を実施し、プログラムの評価を行い、

心理教育プログラム“サクセスフル・セルフ”保育者養成版プログラムの有用性について検討する。

#### 4. 研究成果

まず、人間関係力を育む保育者養成教育について検討するため、大学生の人間関係力育成に関する国内の先行研究を概観した結果、人間関係力に関する要素、人間関係力の育成に関するワーク等の内容や、保育者養成校も含めた大学における実践的な取り組み内容が明らかとなった。まずは学生自身が、人間関係力向上の必要性を感じ、自らの課題や自身の目標の達成に向けて取り組めるよう意欲を高めていくことが大切であり、保育者養成校においては、問題（課題）を解決する力、自分の意見や考えを伝える力等の育成が課題であることが窺えた。

次に、保育者養成に特化した人間関係力の育成を目指した心理教育プログラム“サクセスフル・セルフ保育者養成版”（全12レッスン）を作成後、プログラムの前半7レッスンを四年制保育者養成課程1年次前期の授業「保育者論」において47名を対象として実施した。また、プログラムの後半5レッスンを4年次後期の授業「教職・保育実践演習」において45名を対象として実施した。そして、実施した内容や実施方法が適切であるかどうかを検討した。レッスン終了後、学生にレッスン内容に対する理解度、分かりやすさ、生活への役立ち感等について5件法で尋ねたところ、各評価内容20項目のうち、18項目で「そう思う」「ややそう思う」との回答が8割を超えていたことから、本プログラムは学生にとって分かりやすく役立つ内容になっていることが示唆され、プログラムのねらいに沿ったレッスン評価がなされたと考えられた。

レッスン1は、1年次前期の最初の授業で実施したため、学生同士の友人関係の構築に効果的であり、自分から積極的に人に関わりたいといった今後の意欲につながったと考えられた。レッスン3は、自分が得意なこと、頑張っていること等ポジティブな面に着目したり、エゴグラムで自分の性格特性や行動パターンを理解したりすることで、学生の自己受容や自己理解につながったと考えられた。レッスン5では、困難な状況に関わる人の気持ちを個人やグループで考えるという課題に取り組む中で、相手の気持ちを考えながら自分の気持ちを分かりやすく伝えることの大切さを学ぶ場となっていた。レッスン8では、「私は」ではじめるコミュニケーションの実践を行った。レッスンでの実践が、自分の思いをきちんと相手に伝えるという事に意識を向ける機会になったと考えられる。レッスン9では、保育現場での保護者との対話をロールプレイ形式で実践した。このレッスンは、学生が役立ったと感じた割合が高く、実習等ではあまり経験することがないため、こうした機会を設けることは有効であると考えられる。レッスン10では、保育現場で起こりがちな困難場面について、問題解決法を用いて対処と解決案を立て、検討するという実践を行った。学生達は、困難場面において、様々な視点から解決方法を考えるとともに、他の人からも意見を得ることで幅広い視野から解決法を考えることの大切さを実感できたのではないかと考えられる。レッスン12では、自分自身のストレスの原因、ストレスが起こった時の心身の反応を知り、ストレスマネジメントについて考えるという実践を行った。ストレスの原因や心身の反応、ストレスマネジメントについて、学生が理解しやすい内容であったことが窺えた。

学生の記述内容から、レッスン内容は、学生の自己理解や他者理解につながり、人との関わり方について考える機会となったこと、学生のコミュニケーション能力や問題解決力等の向上に繋がり、ストレスマネジメントについて考える機会となったこと、グループ活動や

ロールプレイを取り入れた実施方法は有効であったことが窺えた。なお、プログラム実施前後の心理社会的要因に関する評価指標には有意な差は見られなかったことから、プログラムの効果については、今後さらに詳細な検討が必要だと考えられる。

作成したプログラムは、冊子『保育者をめざす学生のための人間関係力ワークブック - 心理教育プログラム “サクセスフル・セルフ” 保育者養成版 - 』として発刊した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 加藤由美・安藤美華代	4. 巻 59(1)
2. 論文標題 若手保育者の離職防止に向けて 園長を対象とした質問紙調査から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保育学研究	6. 最初と最後の頁 117-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20617/reccej.59.1_117	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 加藤由美・安藤美華代	4. 巻 11
2. 論文標題 人間関係力を育む保育者養成教育の実践 - 心理教育“サクセスフル・セルフ保育者養成版”の作成, 実施と評価	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡山大学教師教育開発センター紀要	6. 最初と最後の頁 165,178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18926/CTED/61572	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 加藤由美	4. 巻 40
2. 論文標題 マイクロティーチングの実践に関する一考察 短期大学保育者養成教育に焦点をあわせて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新見公立大学紀要	6. 最初と最後の頁 127-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 加藤由美	4. 巻 39
2. 論文標題 人間関係力の育成に向けた保育者養成教育-保育者の困難事例から学生は何を学ぶのか-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新見公立大学紀要	6. 最初と最後の頁 143-151
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加藤由美・安藤美華代	4. 巻 9
2. 論文標題 大学生の人間関係力育成に関する研究の動向と保育者養成教育への活用に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岡山大学教師教育開発センター紀要	6. 最初と最後の頁 337-350
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18926/CTED/56563	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 加藤由美
2. 発表標題 保育者養成や若手保育者の育成において大切な事 園長へのインタビュー調査から
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤由美
2. 発表標題 人間関係力を育む保育者養成教育
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤由美
2. 発表標題 若手保育者の離職防止に向けて 園長対象のアンケート調査から
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤由美
2. 発表標題 “サクセスフル・セルフ” 保育者養成版の実践
3. 学会等名 サクセスフル・セルフ研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 加藤由美	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善雄松堂株式会社	5. 総ページ数 75
3. 書名 保育者をめざす学生のための人間関係力育成ワークブック - 心理教育プログラム “サクセスフル・セルフ” 保育者養成版 -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	住本 克彦 (SUMIMOTO Katsuhiko) (10461972)	奈良学園大学・人間教育学部・教授  (34604)	
研究分担者	安藤 美華代 (ANDO Mikayo) (60436673)	岡山大学・社会文化科学研究科・教授  (15301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------